

【 第20回 日韓スポーツ交流男子・受入 】

2016年10月26日～10月31日 沖縄県・豊見城市他

試合結果報告 10月30日 (日)

JPN	VS	KOR
9	前半	7
12	後半	13
21	合計	20

個人得点

名前	前半	後半	合計
廣上 永遠			0
蔦谷 大雅	2	1	3
木切倉志佑			0
			0
牧野溪一郎		1	1
窪田 礼央	5	2	7
安平 光佑			0
中谷 仁義	1	1	2
内田 光映	1	1	2
青 雅俊		2	2
治田 大成			0
笹本穰太郎			0
榎本 悠雅		3	3
大津 慎吾			0
石田 知耀		1	1
西原 雄聖			0
合計	9	12	21

戦評

日韓交流戦男子日本ラウンドは、開始51秒で左腕エース蔦谷の豪快なミドルシュートでスタートした。韓国チームもゲームメーカーである、CBのキレのあるジャンプシュートやRBのカットインで応戦していたが、日本チームの長身、窪田・内田、青の強いプレッシャーに対し、思うように攻撃できず、攻めきれない場面が続いた。かたや日本も緊張感からパスミスやシュートミスが続き、スタートから10分間で3対4、15分間で5対5というスロペースでゲームが展開された。その膠着状態を打破したのは、日本チームエース窪田と左腕RW中谷である。韓国チームの退場をきっかけにロング・ミッドシュートを立て続けに決め日本チームを引っ張り、中谷の巧みなサイドシュール前半の流れを完全に奪った。

後半に入ると、韓国の高いIDFをCB左腕榎本を中心に持ち前の機動量を生かかし、得点を重ねていくが、対する韓国チームも強い体を生かしたPVプレーで得点を重ね、一進一退の攻防を繰り返していき、ラスト5分で両チームとも退場者が出たが、今回唯一の中学生プレイヤー西原の好セーブと牧野・中谷が韓国チームの隙を確実に仕留め、21・20で日本がゲームを制した。

日本チームのゲームメーカー安平が怪我により、7mのみの出場となるアクシデントに見舞われたが、選手それぞれの長所を生かしたチームプレーで韓国戦に臨むことができたのは大きい。また、左腕エース蔦谷をはじめとする榎本、中谷、治田・大津、5名のサウスポーの成長も注目すべき点である。

男子日本ラウンド終了をもって、本年度男女日韓交流事業の終わりを迎えたが、男女共、日本ラウンド勝利、韓国ラウンド引き分けという、韓国に負けず事業を終えることができた。これも選手たちの努力や成長によるものであり、この将来有望な選手たちの今後の活躍に注目していきたい。

報告記入者： 大原 雅広